

岩手県競馬組合改革（18・19年度計画）の見直計画（骨子案）の概要

1 改訂実行計画の評価

自場発売力が予想を超えて低下してきており、今後における自場発売の大幅な増加は期待し難いという判断に改め、それに沿った対応策を考え出していくことが必要。

表1 岩手競馬の発売額実績

単位：百万円、%

年度	自場発売額			広域受託発売額			発売額合計
	発売額	1日当たり額	H15年度比	発売額	1日当たり額	H15年度比	
平成15年度	30,585	255	100	7,195	60	100	37,780
平成16年度	25,846	210	82	5,886	48	80	31,712
平成17年度	22,965	173	68	5,271	41	68	28,236
平成18年度	21,265	161(198)	63	—	36	60	—

2 18年度及び19年度損益見込み

18年6月までの実績を踏まえた18年度及び19年度の損益（成行きベース）は、経常損益及び当期純損益とも計画を下回り赤字が見込まれる。

3 18年度及び19年度計画の見直しの考え方

290億円台の発売額で持続可能な経営体質への転換が不可避であり、当面、平成19年度までにコスト削減を軸に経営体質を改善することで、事業経営基盤の強化を図り、再生に向けた次のステップにつなげる。

4 コスト削減

次の基本的な考え方のもと、人件費・労務費や賞典費等の削減により平年ベースで総額10億円以上のコスト削減に取り組む。

- ア ゼロベースの視点に立ってコスト要因を分析し、コスト構造そのものの変革に取り組む。
- イ 人件費・労務費の削減に当たっては、従事員等のモチベーションが損なわれないように留意するとともに、将来的には組織の活性化に資することとなるように取り組む。
- ウ 売上に変動して必要コストを増減させる等の費用の変動費化に、できるものから取り組む。

5 発売額の見直し

19年度は収益性の確保が難しい特別競馬（6日間）を廃止、減少する日数については、広域受託を行うことにより収益の増加を図る。

なお、インターネット及び街中場外について、これまでの状況を踏まえて発売額を見直す。

区分	18年度	19年度
岩手競馬開催日数	132日	126日

6 広域受託発売の拡大

受託発売及びリレー発売の拡大に取り組むとともに、併売の実施に向けた検討を行う。

区分	19年度増加日数	備考
広域受託発売	概ね90日程度	
リレー発売	概ね80日程度	

7 資産売却

現在、直営及び委託により運営している場外発売所について、岩手競馬の発売継続を前提にして売却を進める。

8 見直し後の損益見込み

平成18年度は、資産売却により損失を補わざるを得ないが、平成19年度は、コスト削減等を軸とした経営体質の改善により、経常赤字の大幅な圧縮が可能であり、経常損益の収支均衡に向けた検討を引き続き進める。

9 元気の出る岩手競馬への再生に向けて

- (1) 馬主層の拡大
- (2) 魅力を活かした多様な誘客活動の展開
- (3) 岩手競馬のサポーターの組織化
- (4) 他の競馬主催者等との連携・協調
- (5) 競馬情報の提供と広報宣伝の充実

岩手競馬の目指す姿

他の地方競馬主催者等との連携と県民、市民の参画により、常時、魅力ある商品をファンに提供できる地方競馬として再生する。

平成18年7月10日
岩手県競馬組合

岩手県競馬組合改革（平成18・19年度計画）の見直計画（骨子案）

1 改訂実行計画の評価

（1）改訂実行計画の骨子

改訂実行計画の基本方針は、商圈及び底辺人口の拡大（経営規模の拡大）を図りつつ、不断のコスト削減を実施（経営基盤の確立）し、もって累積債務を解消すること。

ア コスト削減

平成17年度から平成19年度までの3か年間で30億円のコストを削減

イ 売上の拡大

3連勝式勝馬投票（3連単、3連複）の導入、インターネット投票、街中場外の設置等の促進を図ることで、売上を拡大

（2）改訂実行計画の評価

自場発売額及び広域受託発売額の推移を見るかぎり、自場発売力が予想を超えて低下してきている。

しかし、平成18年度に入りその下落幅は鈍化の傾向にある。その理由を、下げ止まりの兆候と理解すべきか、平成18年度から新たなに発売を開始した3連勝式勝馬投票の一過性的結果によるものかは、しばらくその経過を見守る必要があるが、岩手競馬商圈内の購買力は低下してきており、今後における自場発売の大幅な増加は期待し難い、という判断に改めるべきであり、それに沿った対応策を考え出していくことが必要と考えられる。

平成18年4月から開始したインターネット投票による発売は、最近の動向を見るかぎり、平成18年度計画額の達成を見込むことが可能な状況であり、引き続きその利用拡大に取り組んでいく。

街中場外発売所の設置については、奥州市（水沢区）において具体化の動きが出てきている。街中場外発売所は、新しいファンの掘り起こしや拡大に不可欠であり、関係する市や県との協力の下、その円滑かつ円満な実現に向け取り組んでいく。

広域委託発売は、堅調に推移しており、この取組みの拡大と、その充実を通して自圏以外の商圈の拡大を図り、売上の増加につなげていく。

表1 岩手競馬の発売額実績

単位：百万円、%

年 度	自場発売額			広域受託発売額			発売額 合 計
	発売額	1日当たり額	H15年度比	発売額	1日当たり額	H15年度比	
平成15年度	30,585	255	100	7,195	60	100	37,780
平成16年度	25,846	210	82	5,886	48	80	31,712
平成17年度	22,965	173	68	5,271	41	68	28,236
平成18年度	21,265	161(198)	63	—	36	60	—

備考 平成18年度発売額は、平成18年6月時点の推計値である。(表2に同じ)

平成18年度1日当たり額欄の()は、改訂実行計画策定時の計画値である。

表2 岩手競馬の広域委託発売実績

単位：百万円、%

年 度	発売額	H15年度比
平成15年度	6,152	100
平成16年度	6,013	98
平成17年度	6,674	108
平成18年度	6,743	110

2 平成18年度及び19年度損益見込み(成行きベース)

平成18年6月までの実績を踏まえた平成18年度及び平成19年度の損益は、成行きベースで次のとおり見込まれる。

表3 平成18年度及び19年度損益見込み(成行きベース)

単位：百万円

項 目	平成18年度		平成19年度	
	H18年度計画	成行き	H19年度計画	成行き
発売額	32,690	28,828	36,311	28,828
その他収入	2,011	1,659	1,815	1,659
売上高計	34,701	30,487	38,126	30,487
経常損益	△ 718	△ 1,990	384	△ 1,990
当期純損益	102	△ 850	384	△ 1,990

3 平成18年度及び19年度計画の見直しの考え方（見直計画）

岩手競馬は、地域経済への貢献、健全な娯楽の提供、馬事振興・馬事文化の継承等多面的な存在意義を有しているが、最大の存在意義は地方財政への貢献である。

これまで岩手競馬は、構成団体に対して約407億円の利益金の配分、テレトラックを設置している地方公共団体への環境整備振興事業負担金の交付（約22億円）等により、地方財政に寄与してきた。

平成11年度には利益金の配分が不可能になり、翌年度には赤字決算となり、以来赤字を累積してきた岩手競馬にとっての最大の使命は、徹底した経営改善に努めるとともに、顧客本位の視点に立った魅力ある競走の展開によって売上の回復を実現し、まず、今日の危機的状況を脱け出すことで、その後、安定した経営が持続する体制を構築し累積債務を順次解消していくこと、こうしたプロセスを経て「地方財政への貢献」という地方競馬本来の姿を取り戻すことである。

視点を換えれば、持続可能な岩手競馬へと再生する取組みは、将来における県民・市民の財政的負担の回避につながるものと確信している。

平成18年度及び19年度の計画の見直しに当たっては、自場発売力の低迷と大幅な収益低下の下にあって、経常損益ベースでの収支均衡を実現するためには、290億円台の発売額で持続可能な経営体質への転換が不可避であるという考えの基に作業に取り組んだ。

当面、平成19年度までにコスト削減を軸に経営体質を改善することで、事業経営基盤の強化を図り、再生に向けた次のステップにつなげていくこととした。

経営改革に取り組むに当たっては、これまでは必ずしも情報の開示が適時適切に行われてこなかったという反省に立ち、今後においては徹底した情報公開により県民・市民の皆様のご理解とご支援を得ながら、岩手競馬の再生に取り組んでいく。

4 コスト削減

（1）基本的な考え方

ア ゼロベースの視点に立ってコスト要因を分析し、コスト構造そのものの変革に取り組む。

イ 人件費の削減に当たっては、従事員等のモチベーションが損なわれないように留意するとともに、将来的には組織の活性化に資することとなるように取り組む。

ウ 売上に変動して必要コストを増減させる等の費用の変動費化に、できるものから取り組む。

（2）コスト削減の内容

平成18年度及び19年度において、次のコストの追加削減に取り組む。

表4 コスト削減額

単位：百万円

項目	内容	H18年度	H19年度
走路管理費	ダート、芝走路維持管理方法の見直し 走路除雪機械の自己所有	23	98
施設設備維持管理費	競馬場等保守管理費及び光熱水費削減、 ハルビルH19維持管理費削減 (H18 36百 万円→H19 15百万円)	22	52
従事員等配置経費	投票、清掃、警備の効率的人員配置	56	138
場外発売所賃借料	賃借料の削減、維持管理一元化	0	67
トータリゼータシステム費	トータリゼータシステムのリースアップ	0	51
人件費	期末手当等の削減及び定員の縮減等	0	120
賞典費	馬主及び調教師等の理解と協力を得て、 優勝劣敗に基づいた賞金体系を構築	0	796
広告宣伝及び催事費	費用対効果を踏まえたコストの効率化	0	10
その他管理費	競走馬等輸送費、廃棄物処理費等管理費 全般の見直し	3	48
合計		104	1,380

(別紙1参照)

(3) 増加が見込まれるコスト

平成18年度成行きに比較して増加が見込まれる次のコストを損益に反映した。

表5 増加が見込まれるコスト

単位：百万円

項目	内容	H18年度	H19年度
従事員関係費	従事員の配置見直しに伴い発生する 費用	9	21
地方債利息	経営改善債利息増加額	0	9
合計		9	30

5 発売額の見直し

平成18年6月までの発売実績を踏まえ、発売額を以下のとおり見直す。

(1) 自場発売額、広域委託発売額

平成19年度、収益性の確保が難しい特別競馬（6日）を廃止し、減少する日数については、他地方競馬主催者の広域受託を行うことにより、収益の増加を図る。（別紙2参照）

開催日数 平成18年度 132日 → 平成19年度 126日

単位：百万円

項 目	成行き	見直し後	
	H18・19年度	H18年度	H19年度
自場発売額	21,265	21,265	20,678
広域委託発売額	6,743	6,743	6,585
合 計	28,008	28,008	27,263
その他収入（増減分）	—	0	△ 5
収支改善額	—	0	39

(2) インターネット発売

インターネット発売は、平成18年4月当初に比較して6月以降の発売額（水沢3回以降）が増加傾向にあることから、その傾向値により発売見込み額を見直す。（別紙3参照）

単位：百万円

項 目	成行き	見直し後	
	H18・19年度	H18年度	H19年度
インターネット発売額	820	974	1,731
収支改善額	—	13	77

(3) 街中場外発売額

これまでの設置に向けた取組状況等を踏まえ、発売額を見直す。（別紙4参照）

単位：百万円

項 目	成行き	見直し後	
	H18・19年度	H18年度	H19年度
街中場外発売額	0	86	235
収支改善額	—	1	2

6 広域受託発売の拡大

受託発売及びリレー発売の拡大に取り組むとともに、併売の実施に向けて検討を行う。また、受託発売の拡大に伴い、広域委託発売の拡大も目論み検討を行う。(別紙5参照)

広域受託増加日数 平成19年度 概ね90日程度

リレー発売増加日数 平成19年度 概ね80日程度

※リレー発売：最終レース終了後、引き続き別主催者の競馬を発売する形態

併 売：2主催者の競馬を並行して発売する形態

単位：百万円

項 目	成行き	見直し後	
	H18・19年度	H18年度	H19年度
受託発売収支改善額	—	84	266

7 資産売却

現在、直営及び委託により運営している場外発売所について、岩手競馬の発売継続を前提にして、売却を進め、必要資金の確保を図る。

場外発売所売却額 平成18年度 1,700百万円

競馬会館売却額 平成18年度 320百万円 (※売却済み)

8 見直し後の損益見込み

上記の取組みを実施した場合の岩手競馬の損益を次のとおり見込む。

平成18年度は、資産売却により損失を補わざるを得ないが、平成19年度は、コスト削減等を軸とした経営体質の改善により、経常赤字の大幅な圧縮が可能であり、経常損益の収支均衡に向けた検討を引き続き進める。

表5 岩手競馬損益見込み

単位：百万円

項 目		平成18年度			平成19年度		
		18年度 計画	成行き	見込額	19年度 計画	成行き	見込額
発売額	自場発売	25,877	21,265	21,265	26,198	21,265	20,678
	広域委託発売	5,513	6,743	6,743	5,513	6,743	6,585
	インターネット発売	1,000	820	974	4,000	820	1,731
	街中場外	300	0	86	600	0	235
	小 計	32,690	28,828	29,068	36,311	28,828	29,229
その他収入		2,011	1,659	1,743	1,815	1,659	1,935
売上高計		34,701	30,487	30,811	38,126	30,487	31,164
経常損益		△718	△1,990	△1,797	384	△1,990	△256
当期純損益		102	△850	223	384	△1,990	△256

※増減要因総括表は別紙6のとおり

9 平成20年度以降の見通し

平成20年度以降においても、収益向上を目指して常にコスト意識をもち、不断に業務のあり方を見直しながら、質の高い競走とサービスを提供する顧客本位の経営に取り組む。

そのため、売上が変動しても、払戻金を除く費用が売上総額の25パーセントの枠内に納まる仕組みの構築に向けた検討に、引き続き取り組んでいく。

- (1) 活力再生につながる不断のコスト削減の仕組み
- (2) 賞典費、人件費等の費用の変動費化への取組み

10 元気の出る岩手競馬への再生に向けて

(1) 馬主層の拡大

クラブ法人馬主については、馬資源の確保に加え、ファンが馬券以外の楽しみを味わえることから、ファン層の拡大という面での貢献も大きい。このため地方競馬におけるクラブ法人（地元法人）の解禁に向けて取り組み、“日本一馬主になりやすい競馬場”を目指す。

困難な場合には、組合馬主の定員数（現行10名）の増員を実現し、実質的に競馬組合が主宰する組合馬主を拡大する。

(2) 魅力を活かした多様な誘客活動の展開

社会全般に動物との触れあいに「憩い」や「安らぎ」を求める指向が強いこと、地域・生活の中で馬事文化を育んできた本県の土壌等を踏まえ、競馬場を複合的なコンセプトを有する施設とし、県民・市民を始めより多くの層が参加しやすいアミューズメント機能や、きめの細かいサービスの提供機能の構築に向けて取り組む。

(3) 岩手競馬のサポーターの組織化

イーハートブ競馬団のような岩手競馬のサポーターの意見・提言を競馬の運営に取り入れていく仕組みを構築する。

(4) 他の競馬主催者等との連携・協調

他の主催者との連携・協調を一層促進し、ファンにとってより魅力あるレースの提供を行う。

(5) 競馬情報の提供と広報宣伝の充実

各種の媒体を介した情報サービスの適切な提供が果たす役割は大きいことから、今後においても、ファンの満足が得られる情報提供の改善に取り組む。

岩手競馬の目指す姿

他の地方競馬主催者等との連携と県民、市民の参画により、常時、魅力ある商品（馬・番組）をファンに提供できる地方競馬として再生する。

11 その他の課題

見直しに当たっては、2場体制について、併せて検討を行い、現状どおり2場体制を維持し、競馬を開催する結論に至った。（別紙7参照）

他の地方競馬主催者の賞典費との比較

1 出走手当

岩手現行 @75~@96

単位：千円

岩手	他主催者
試算値 @55~@76	高位 大井@110、千葉・神奈川@80 中位 佐賀・福山@75 低位 埼玉@70、兵庫@70、金沢@68、荒尾@63、 笠松@56、愛知@50、高知@30

* 北海道は@20~@85であるが、春シーズンとそれ以外で異なる模様。

2 最低一着賞金

岩手現行 @250

単位：千円

岩手	他主催者
試算値 @170	高位 南関東@800、兵庫@300、北海道@200 中位 佐賀@170、愛知@170 低位 金沢@160、笠松・荒尾@150、福山@150、 高知@100

* 賞金の配分方式を 155 から 150 へ変更。

3 配分方式

岩手現行 155 方式

岩手	他主催者
試算 150 方式	170 方式 南関東 160 方式 福山 その他 Gレース、JRA 認定・交流を除くと 140~150 方式

特別競馬の収支

1. 特別競馬（6日間）

特別競馬		
特別競馬開催日数	▲ 6	日間
単位：百万円		
収支		
発売額		745
その他収入		5
A 売上高計		750
売上原価（払戻金等）		570
開催経費（賞典費、従事員賃金等）		204
B 支出計		774
収益（A-B）	▲ 24	

2. 同上代替措置（広域受託発売6日間追加）

広域受託発売（6日間追加）		
受託発売日数	6	日間
単位：百万円		
収支		
受託発売額		262
A 収入（他主催者からの協力金収入）		39
B 支出（従事員賃金等）		24
収益（A-B）		15
単位：百万円		
収支改善額		39

インターネット発売の予測（19年度）

1 南関東の例による場合

平成15年度からインターネット投票（SPAT4 Web投票）を導入している南関東（SPAT4 Web投票）の例を参考に試算する。

単位：千円

区分		15年度	16年度	17年度
SPAT4①	売得金額	26,228,357	24,940,316	34,247,091
	対15年度比	100	95.1	137.3
うち Web投票②	売得金額	9,864,693	12,528,160	18,591,789
	対15年度比	100	127.0	188.5
売得金額③	売得金額	224,950,147	207,637,972	212,021,545
	対15年度比	100	92.3	94.3
シェア	①/③	11.7	12.0	16.2
	②/③	4.4	6.0	8.8
	②/①	37.6	50.2	54.3

《試算1》SPAT4（SPAT4 Web投票）導入時から17年度までの伸率により試算

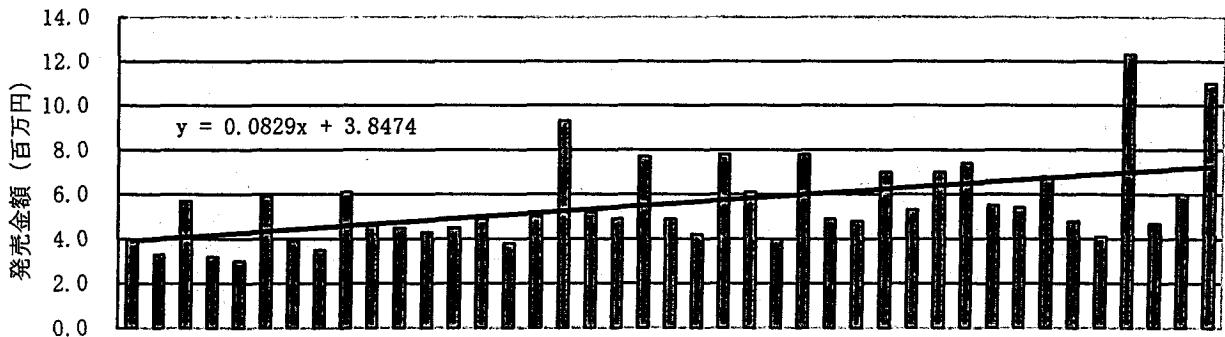
$$974 \text{ 百万円} \times 188.5\% = \underline{1,836 \text{ 百万円}}$$

《試算2》南関東を岩手競馬規模に移した場合のインターネット発売規模を試算 2,599 百万円

2 近似値曲線による場合

18年度水沢第4回開催までの発売額の推移から近似値線を割り出し、それをもとに19年度発売額を試算する。

インターネット発売(4/8~7/3)



《試算3》19年度初日発売額 $0.0829 \text{ 百万円} \times 132 \text{ 日} + 3.8474 \text{ 百万円} = 14.7902 \text{ 百万円}$

19年度末日発売額 $0.0829 \text{ 百万円} \times 132 \text{ 日} + 14.7902 \text{ 百万円} = 25.733 \text{ 百万円}$

19年度発売額見込 $(14.7902 \text{ 百万円} + 25.733 \text{ 百万円}) \times 132 \text{ 日} \times 1/2 = \underline{2,674 \text{ 百万円}}$

3 経常損益

最も低い数値である試算1を採用。ただし、試算1が132日ベースのため126日に換算して算出。

単位：百万円

区分	18年度成行	18年度見込	19年度（126日換算）	備考
発売額①	820	974	1,731	
経常損益	70	83	147	①×(23.5%-オッズパーク委託料15%)
18年度成行との差		13	77	

街中場外の発売額の予測

1 設置計画

18年度及び19年度については、現在、計画が進行している奥州市での設置を計上する。(18年度盛岡第4回開催から稼動)

2 発売額予測

現在予定されている街中場外の計画をもとに試算。なお、入場者には水沢競馬場からの振替えが見込まれるのでその影響額を算定。

街中場外の発売額

- 水沢競馬場1人当たり購買金額 14千円(18年度水沢第4回開催まで実績)
- 予定される街中場外の規模 定員200人

区分	金額	内訳
年間発売見込額	353百万円	@14千円×200人×126日
損益ベース	30百万円	352,800千円×(23.5%-民間委託料15%)

水沢競馬場影響額

街中場外入場者の最大1/3程度が水沢競馬場からの振替分と仮定(18年度水沢競馬場1日当たり入場者実績3,040人の約2%)。

区分	金額	内訳
年間発売減少額	118百万円	@14千円×200×1/3×126日
損益ベース	28百万円	117,600千円×23.5%

※ 奥州市の場合、競馬場が市街地にあることから、競馬場距離の短縮による来場促進効果より、気軽さと利便性による新規顧客の来場及び競馬から離れていた経験者の回帰が中心であり、競馬場からの既存顧客の振替えは少ないものと見込まれる。

3 経常損益

単位：百万円

区分		街中場外発売分	うち水沢競馬場振替分	街中場外増加分
19年度	発売額	353	▲118	235
	経常損益	30	▲28	2
18年度 (9月30 日の盛岡第 8回開催か ら稼動)	発売額	134	▲48	86
	経常損益	11	▲10	1

(参考) 街中場外設置促進の考え方

1 目的・効果

自場商圈地域内の利便性による売上拡大、底辺人口の拡大、競馬空白地域の解消

2 奥州市街中場外の位置づけ

上記効果のほか、街中場外の認知度向上、中心市街地の活性化への効果が期待される。

平成19年度における拡大

金曜日発売を追加実施

平成19年度見込	
岩手開催期間中	103日間
岩手開催期間中リレー発売	79日間
冬季期間中	59日間
合計	162日間
実際開催日	162日間
リレー発売日	79日間

拡大

年度当初から 木曜日及びリレー発売を実施

平成18年度見込	
岩手開催期間中	91日間
岩手開催期間中リレー発売	19日間
冬季期間中	59日間
合計	150日間
実際開催日	150日間
リレー発売日	19日間

拡大

平成18年度における拡大

10月以降 広域発売日及びリレー発売を追加実施

平成18年度成行要込	
岩手開催期間中	78日間
岩手開催期間中リレー発売	0日間
冬季期間中	44日間
合計	122日間
実際開催日	122日間
リレー発売日	0日間

拡大

平成19年度委託発売追加(金曜日)	
岩手開催期間中	41日間追加
追加後の日数計	144日間
岩手開催期間中リレー発売	-日間
追加後の日数計	79日間
冬季期間中	11日間追加
追加後の日数計	70日間
実際開催日	52日間
追加後の合計	214日間
リレー発売日	79日間

平成19年度委託発売追加	
岩手開催期間中	12日間追加 (25日間)
追加後の日数計	103日間
岩手開催期間中リレー発売	60日間追加 (79日間)
追加後の日数計	79日間
冬季期間中	(15日間)
追加後の日数計	59日間
実際開催日	12日間
追加後の合計	162日間
リレー発売日	79日間

平成18年度委託発売追加	
岩手開催期間中	13日間
追加後の日数計	91日間
岩手開催期間中リレー発売	19日間
追加後の日数計	19日間
冬季期間中	15日間
追加後の日数計	59日間
実際開催日	28日間
追加後の合計	150日間
リレー発売日	19日間

平成19年度収益額 (A+B)

266

平成18年度収益額

84

単位:百万円

収益効果試算 (4月~3月)	
販売額(岩手開催期間中25日間)	1,169
販売額(リレー発売79日間)	1,599
◎岩手開催期間中追加による収支	
収入(協力金)	387
支出(岩手開催期間中コスト)	136
支出(リレー発売分コスト)	102
収益(①)	149
販売額(冬季期間中15日間)	656
◎冬季期間中追加による収支	
収入(協力金)	98
支出(冬季期間中コスト)	60
収益(②)	38
B 収益額 (①+②)	187

単位:百万円

収益効果試算 (10月~3月)	
販売額(岩手開催期間中13日間)	573
販売額(リレー発売19日間)	397
◎岩手開催期間中追加による収支	
収入(協力金)	136
支出(岩手開催期間中コスト)	64
支出(リレー発売分コスト)	26
収益(①)	46
販売額(冬季期間中15日間)	656
◎冬季期間中追加による収支	
収入(協力金)	98
支出(冬季期間中コスト)	60
収益(②)	38
収益額 (①+②)	84

増減要因総括表

1. 発売収入に起因する増減

(1) 発売収入の増減

単位:百万円

項目	H18成行額	H18見込額	H19見込額
特別競馬取止め			△ 745
同上に伴う入場料等収入			△ 5
インターネット発売		154	911
街中場外		86	235
計	-	240	396

(2) 売上原価の増減

項目	H18成行額	H18見込額	H19見込額
特別競馬取止め			△ 570
インターネット発売		141	834
街中場外		79	215
計	-	220	479

(3) 開催経費

項目	H18成行額	H18見込額	H19見込額
特別競馬取止め			△ 204

(4) 収支改善額 (1) - (2) - (3)

項目	H18成行額	H18見込額	H19見込額
特別競馬取止め			39
インターネット発売		13	77
街中場外		1	2
計	-	14	118

2. 広域受託発売に起因する増減

項目	H18成行額	H18見込額	H19見込額
木曜日・リレー発売		84	187
金曜日発売			79
計	-	84	266

3. コスト削減額

項目	H18成行額	H18見込額	H19見込額
走路管理費		△ 23	△ 98
施設設備維持管理費		△ 22	△ 52
従事員等配置経費		△ 56	△ 138
場外発売所賃借料			△ 67
トータリゼータシステム費			△ 51
人件費			△ 120
賞典費			△ 796
広告宣伝及び催事費			△ 10
その他管理費		△ 3	△ 48
計		△ 104	△ 1,380

4. 増加が見込まれるコスト

項目	H18成行額	H18見込額	H19見込額
従事員関係費		9	21
地方債利息			9
計	-	9	30

5. 経常損益

項目	H18成行額	H18見込額	H19見込額
増減額 1 (4) + 2 - 3 - 4		193	1,734
経常損益	△ 1,990	△ 1,797	△ 256

二 場 体 制 の 検 証

I 開催形態	現 状	ケース 1		ケース 2		ケース 3		ケース 4		ケース 5		ケース 6	
		盛岡・水沢 860馬房	盛岡 盛岡に新設(水沢廃止) (850馬房)	盛岡 水沢維持 (860馬房)	盛岡 水沢廃止 (260馬房)	水沢 盛岡維持 (860馬房)	水沢	盛岡・水沢 盛岡・水沢維持 (860馬房)					
3. 競馬開催日数	日数	日数	日数	日数	日数	日数	日数	日数	日数	日数	日数	日数	日数
盛岡 (日間)	73	108	108	108	108	34	0	0	0	0	34	34	34
水沢 (日間)	59	0	0	0	0	0	0	132	88	88	88	88	88
計	132	108	108	108	108	34	0	132	88	88	122	122	122
4. 同上の増減理由		冬期間走路凍結の為、4月～11月末までの開催	冬期間走路凍結の為、4月～11月末までの開催	冬期間走路凍結の為、4月～11月末までの開催	冬期間走路凍結の為、4月～11月末までの開催	隔週土・日の2日間開催	隔週土～火の4日間の開催	変更なし	隔週土～火の4日間の開催	4月～1月中旬まで及び3月の開催	4月～1月中旬まで及び3月までの開催	4月～1月中旬まで及び3月までの開催	4月～1月中旬まで及び3月までの開催
5. 競馬開催日数減少の補充策	広域委託 122日間	広域委託 24日間増加	広域委託 24日間増加	広域委託 24日間増加	広域委託 24日間増加	広域委託 98日間増加	広域委託 98日間増加	広域委託 現状どおり	広域委託 44日間増加	広域委託 44日間増加	広域委託 10日間増加	広域委託 10日間増加	
II 損益試算	18年度当初予算売上高 32,690百万円	△ 5,928	△ 5,928	△ 5,928	△ 5,928	△ 24,206	△ 24,206	—	△ 10,868	△ 10,868	△ 2,470	△ 2,470	
増減													
1. 売上高の増減に伴う損益増減		△ 1,109	△ 1,109	△ 1,109	△ 1,109	△ 4,636	△ 4,636	—	△ 2,057	△ 2,057	△ 462	△ 462	
2. 売上高の増減に伴う変動コスト増減		1,003	1,003	1,003	1,003	4,096	4,096	—	1,839	1,839	418	418	
3. 同上以外のコスト増減		△ 239	△ 417	△ 417	△ 417	88	88	137	62	62	129	129	
4. 非本場化による損益増減		△ 203	△ 203	△ 203	△ 203	△ 64	△ 64	△ 266	△ 145	△ 145	13	13	
5. 広域委託		31	31	31	31	127	127	0	57	57	98	98	
計		△ 517	△ 695	△ 695	△ 695	△ 389	△ 389	△ 129	△ 244	△ 244	98	98	

(試算の前提と損益の枠外費用について)

- 1. 盛岡へ馬房等新設に伴う設備投資額試算値
・ 厩舎の建設 2,950百万円
・ 厩務員宿舎建設 890百万円
・ 盛岡競馬場補助走路整備 200百万円
計 4,040百万円

※ 設備投資に伴うコストは見込まず
2. 水沢への馬房等移転は、用地確保の必要があるため検討から除外
3. 損益は、18年度予算数値を基に試算
4. 開催地の移転に伴う売上高への影響
(1)原則としては、売上高への影響は見込まず。
(2)但し、上記(1)に拘わらず、非本場となった当該施設の売上高は減額修正

(山形県上山競馬の競馬開催時と開催廃止後の岩手競馬の発売実績から、20%のマイナス影響と試算)

- 6. 変動コスト以外のコスト増減
借地料等の固定費と開催日数増減を超過する変動費の差額等の合計値
- 7. 広域委託による損益は、18年度予算数値 (1.3百万円/日の利益)を基に試算

平成18年7月10日

フォーメーションカードに係るトータリゼータシステムの追加導入について

開幕当初から要望が多かった「マルチ・フォーメーション」カードによる勝馬投票について、下記により導入が出来る運びとなりました。

記

1. 導入予定日 平成18年8月13日(第6回盛岡競馬 4日目)
2. 導入方法 次の9主催者と競馬法に基づく連携事業として、事業費の2分の1の補助を受け導入。
(9主催者=北海道、岩手、浦和、船橋、大井、川崎、兵庫、笠松、名古屋)

3. 設備投資総額と補助金

① 総額	115,984千円
② 連携による補助額	57,992千円
③ 組合負担額	57,992千円

4. 導入に係る予算補正

今般の導入に当り「連携事業補助金」に係る「歳入予算」及び連携に係る負担金の「歳出予算」について、7月31日開会予定の臨時議会に補正予算(第2号)として計上する予定としております。

(予算案)

(1) 歳入予算の補正額	57,992千円
(2) 歳出予算の補正額	57,992千円

5. ファン告知

平成18年7月末頃から、フォーメーションカードの導入に係るファン等へ告知を予定。

パルソビルの信託契約に係る対応について

パルソビルの信託契約（平成元年10月31日契約）については、受託者（三菱UFJ信託銀行）との協議を進めているところですが、今般、受託者から次のとおり申入れがありましたので報告します。

1 申入れの内容

次の二つの案のどちらかを選択し信託契約を終了することについて事前に申入れがあったものであり、7月4日までの回答を求められたものである。

なお、応じられない場合はより強硬な文面での申入れになるとの話があったこと。

【第1案】

- 1 信託終了期日を平成18年7月末日まで1カ月間猶予する。
- 2 ただし、下記3点を確認できる書面があれば、信託終了期日を平成19年3月末日まで猶予する。
 - ① 再建計画に「本年度内の原契約終了及び精算金（約7億1千万円）の本年度内支払」を織込むこと。
 - ② 本年度内、信託勘定内に流動性資金の不足が発生しないよう予算化すること。
 - ③ 平成19年3月までに①の予算化が実現しなかった場合、19年3月末日の契約終了時点で、信託内債務について受託者が固有財産により全額立替払いし、当該補償請求債権の返済を信託財産あるいは組合に請求しても異議のないこと。（信託対象不動産を処分の上、補償請求権の弁済に充当することを含む。）
- 3 2の書面がない場合、7月中であっても盛岡簡易裁判所に調停を申し立てる。

【第2案】

信託終了することを前提に、受託者が19年3月末日までの短期資金を融資すること。

2 上記への対応

受託者に対しては、申入れ内容は議決事項になるものもありあらかじめ議会に諮る必要があることから、7月4日までの回答は困難であり期限の猶予を申し入れている。

なお、受託者は内部で協議するとのことであり、現時点でその結果は示されていない。

(案)

平成 18 年 7 月 日

岩手県競馬組合管理者
増 田 寛 也 様

盛岡市議会議長 山 本 武 司

(奥州市議会議長 小 沢 昌 記)

岩手競馬の運営に対する要望書

岩手県競馬組合構成団体である、我々盛岡市・奥州市の両市議会は、平成 17 年度及び 18 年度の 3 月議会において、厳しい財政状況の中、競馬組合に対する 5 億円の融資を含む新年度当初予算案をそれぞれ可決した。また両市議会それぞれで競馬に関する特別委員会を設置し、競馬事業についての調査・研究を行いながら、岩手競馬存続に向けた支援・協力を行ってきているところである。

しかしながら、現状を見れば、実行計画初年度にあたる平成 17 年度は約 8 億円の赤字となり、また平成 18 年度の第 1 四半期における売り上げも計画の 90%にとどまるなど、実行計画の実効性が疑われる厳しい状況であり、岩手県競馬組合管理者の責任は甚大である。

このような中、本年 7 月、両市議会の競馬関連特別委員会が二度にわたり意見交換の場を設け、岩手競馬のあり方について議論を行った。

以上を踏まえ、岩手競馬の運営及び実行計画の見直しに当たって下記のとおり強く要望し、併せて誠意ある回答を求めるものである。

記

1 情報開示について

公認会計士などによる外部監査を早急に実施するとともに、情報公開条例を制定し、我々構成団体に対して、財務内容も含め、すべての情報を開示すること。

2 改訂実行計画について

(1) 平成 18 年度の第 1 四半期における売り上げ計画を達成できなかったことを踏まえ、現執行体制の見直しを早急に行うこと。

(2) 改訂実行計画の見直し計画作成段階において、構成団体の市議会に対し説明を行い、両市議会の意向も反映すること。

(3) 改訂実行計画の見直し計画作成に当たっては、競馬に精通した職員を参画させるとともに、職員及び関係団体などの意見を十分に反映できる体制を構築し、目標を達成できる確実性を担保した計画に見直すこと。

(4) コスト削減とともに売上を増やす方策を積極的に講じること。特に、他場発売が前年度を上回る実績を上げるなど、まだまだ他場での委託発売が可能なことから、早急に管理者自らが他の地方競馬へ出向き、粘り強く岩手競馬の委託発売交渉を進めること。

3 意見交換について

存廃を含めた岩手競馬の運営に対する基本姿勢を問うため、管理者と構成団体の市議会との意見交換の場を設けること。